

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8年 3月 4日
札幌市立東白石中学校

1 今年度の重点目標

『知・徳・体・志のバランスのとれた生徒』の育成推進に向け、「一人一人の自己実現」を支える取組 「チームトシク」 i 情報の共有化 → 伝達は2方向以上、教職員間の会話の重視 ii 一人で抱え込まない → 個<学年<部<教頭<校長 iii 共によりよき学校を目指し、困難を分かち合う同僚性を大切に iv 校務、学年、親睦会を超えたコミュニケーションを大切に v パートナー校との連携による連続した教育を大切に vi PTAや地域との融和を進められるチーム意識

2 今年度の経営方針

【学校経営の重点】 (1) 働き方改革 (2) 「居場所づくり」、教育相談機能の充実 (3) 「学ぶ力」の育成 (4) 「豊かな心」「健全な人間関係」の育成 (5) 「健やかな体」の育成 (6) 地域とともにある学校づくり (7) 「信頼される学校」の創造

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(1) 働き方改革	校務や学年、学校行事等の資料の管理ができています。学校行事の精選を推進することができています。	A	教職員が仲間意識をもち、改革へのアイディアを創出するべく、各担当が中心となり業務を進めた。合唱活動を、より負担のかからない範囲でこれまでの伝統を継承することができた。今後も持続可能な行事の精選を推進していく必要がある。	A	A
	ICT機器を効果的に活用することができています。スケジュール管理による効率化ができています。	A	タブレットを利用したオンライン学習、スケジュール管理等をより有効的に実施することができた。情報資産の取り扱いについては、今後も細心の注意を払っていく必要がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見	適切な評価であると判断する。				
(2) 「居場所づくり」、教育相談機能の充実	生徒の居場所づくり(相互承認、いじめ撲滅、後ろ向き発言排除等)ができています。	A	Q-Uを継続的に実施し、その結果を活用することができています。今後も、小学校や家庭との連携、学校教育活動についての家庭の理解と協力のもと、生徒たちの居場所づくりを目指していく。	A	A
	個々の生徒の困り感に応じた対応(支援計画の共有、合理的配慮)ができています。	A	相談活動による状況把握と、学年内や各教科、生徒指導部会、学びの支援委員会、いじめ防止対策委員会等での情報交流を継続し、今後もより良い支援の在り方について検討していく。	A	A
	温かなつながりを感じるあいさつが飛び交う学級・学年・学校づくりができています(心理的安全性)。	A	毎朝、生徒が登校する場面で、多くの教員が挨拶を交わすことから1日を始められるようにしている。下校時の声掛けも可能な限り行っている。小学校や地域との連携も図りながら、今後も学年や学級、個々の生徒へのアプローチを推進していく。	A	A
	先を見越した計画的な工夫で、生徒が主体となっている活気ある生徒会活動ができています。	A	文化祭準備の活動時間を通して、生徒個々の活躍する場面を作ることができた。また、生徒の声を生かした自主的な活動を実施することができた。	A	A
	学びの支援委員会の機能が充実している(SCや相談支援パートナーとの有機的な連携、学べる環境の整備)。	A	担当教諭が調整し、学びの支援委員会とSCや相談支援パートナーがうまく連携し、整備することができた。今後も継続して取り組んでいく。	A	A

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(2) 「居場所づくり」、教育相談機能の充実	不登校対策の組織的な推進ができてきている(各学年教育相談・不登校対策係・ICT学習支援)。	A	定期的に学びの支援委員会で全校的な状況把握とSCからの助言を得ている。適宜教育委員会や外部の関係機関と連携することもできている。今後も学年が中心となり、日常的な対応を行っていく。	A	A
	いじめ防止基本方針に則った指導、命を大切にしている指導が充実している。	A	シャボテンログや毎日の生徒の生活記録を通じた情報収集、定期的に行う生活アンケートや相談活動を活用し、学級担任を窓口とした学年体制でのサポートを継続している。	A	A
	定期的な教育相談と即時的な教育相談を大切にすることができている(発達支持的生徒指導、課題早期発見対応)。	A	5月の連休明け、夏休み明けに相談期間を設定し、生徒理解・即時的な対応に努めた。しっかりと時間をかけて相談活動が行えるように、可能な限り5時間日課を設定した。	A	A
学校関係者評価委員による意見	一人一台端末を活用したオンラインによる支援など、多様な手法を取り入れている点が評価できる。				
(3) 「学ぶ力」の育成	子どもの学びを中心とした確かな学力を定着させるために、課題探究的な学習を取り入れることができている。	A	生徒自身が学習課題を意識し、解決できるよう促すことで、確かな学力の定着を目指している。	A	A
	学習意欲向上への組織的・効果的な対応が充実している(家庭学習や放課後学習の推進等)。	B	不登校生徒や休校日のICTなどの学習サポートの導入を通して、個々の生徒に対してアプローチを行った。今後も、様々な支援を考えていく。家庭学習の習慣化も含めて「主体的に学習に取り組む子どもたち」を育てるために、今後も学校と家庭双方からの働きかけが不可欠である。	A	A
	インクルーシブ教育における専科学習推進ができている。	A	通常学級担当による特別支援学級生徒への授業や、特別支援学級担当による通常学級生徒への授業を行うことができた。今後も、生徒の実態や教職員の体制を考慮した取組を目指していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	生徒が自発的に学びたいと考える内容と、教師が身に付けさせたいと考える内容に、差異があるのではないかと。この視点も踏まえつつB評価の項目についてのアプローチを期待する。				
(4) 「豊かな心」「健全な人間関係」の育成	情報の共有化と全職員による生徒の育成(言葉を大切に相互に承認する等)ができている。	A	共有掲示板の活用を通して、各学年の生徒情報の共有を円滑に行い、そこで得た情報をもとに生徒への対応を効果的に進めることができた。また、道徳の授業を通じて、いじめの防止のための働きかけを行っており、今後も大切にしていきたい。	A	A
	生徒会活動の充実、主体的・自治的な文化の構築ができている(プラスのまほう、自治的・文化的な活動)。	A	全校生徒の声を参考にした取組が活発になっている。今後も、生徒会組織が中心となった清掃、除雪、砂撒きボランティア等を充実させていく。	A	A
	自分らしく生きるとともに、多様な価値観を認め合う活動ができている(みんな違う、けれど仲間)。	A	各学年で、旅行的行事の取組やキャリア教育を計画的に推進し、一人一人のキャリア形成と自己実現を教育活動全体で支えている。	A	A
	包括受容的な教育が推進され、特別な配慮・合理的な配慮を伴った対応や取組がなされている。	A	教科指導や日常的な活動において、可能な範囲で交流し、通常学級と特別支援学級の連携を構築し、互いに対する理解を深めている。今後も「場所を分けず、みんなで学ぶ」「どの子どもにも」「配慮をしながら」「特別なことではない」という意識」というインクルーシブの観点から生徒への啓発を推進していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	今日的課題であり、今後も丁寧に対応していただくことを期待する。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(5) 「健やかな体」の育成	生徒にとって清潔で潤いのある教育環境づくりができています。	A	用務員・外部業者の清掃活動に加え、生徒の清掃活動も行っている。今後も教育環境の整備を心掛けていく。	A	A
	食育を通じて自らの健康に関心をもたせることができています(親学校と連携しながら)。	B	白石中の栄養教諭の指導の下、給食を通して、食への関心が高まる資料提供が行われている。今後も、「食」に関する家庭への啓発や連携の充実が必要である。シャボテンログによる状態把握や働きかけもできるとよい。小中一貫教育の「体」プロジェクトによる交流・実践も推進する。	A	A
	「命の大切さ」や「生命尊重」等の感情を育てることができています。	A	道徳の授業を通して、命の問題に取り組んでいる。また、隔年で助産師による講話の実施を継続している。	A	A
	自ら進んで運動に親しむことができる機会の提供ができています。(授業、レク、行事、休み時間等)	A	学校・学年単位での体育的行事や、昼休みの体育館開放が実施できるなど、少しずつ改善している。部活動への加入を奨励する取組も実施している。小学校との連携も図り、計画的に運動に親しむ環境づくりを目指していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	食育については、専門家である栄養教諭が常駐していないことによる、指導の難しさは理解した。部活動指導について、外部の人材も活用し、教師のワークライフバランスを保ちつつ推進していただきたい。				
(6) 地域とともにある学校づくり	小中一貫した教育ランドデザインが共有され、パートナー校と連携した9年間にわたる学びや育ちに係る活動が行われている。	A	パートナー校と協議し、CS設立準備委員会とも連携しながら、ランドデザインの見直しを行った。目指す生徒像についても改めて共有し、「知」「徳」「体」のプロジェクトによる取組を継続してきた。今後も、小学校との情報交流や研修を進めていく。各行事で頑張る子どもたちの姿を見ていただく機会も増やし、地域に開かれた学校づくりを目指していく。	A	A
	PTA活動を整理している。	A	実施可能な活動を、少しずつ行っている。文化祭バザーや研修会等も継続して実施することができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	地域との連携の中にも、今年度の重点目標にある「志」を実践する取り組みを期待する。				
(7) 「信頼される学校」の創造	評価・評定、テスト問題作成等の細心の注意と工夫を行い、説明責任を果たすことができています。	A	評価評定研修会を通して、効果的に研修をすることができた。テストについて、教科の特性にあわせて、改善していくことができた。	A	A
	指導と評価の一体化、妥当性・信頼性を高める評価のオリエンテーションと授業改善を行うことができています。	A	年度当初のオリエンテーションで、評価資料・評定方法の具体を伝えることにより、生徒自らが見通しをもちながら学習に取り組む意欲に繋げている。保護者との共有を、さらに大切にしていく必要がある。	A	A
	学校評価、学校関係者評価による改善・見直しを実施することができています。	A	職員で学校評価を共有し、今後の見通しを意識した実践を心がけることができた。	A	A
	学校ホームページの充実、および学校便り、各種お便りによる発信ができています。	A	連絡用アプリ「すぐー」やホームページの活用等を通して、情報発信を心がけた。学校便りの内容にも工夫を凝らした。今後も、家庭との連携、学校教育活動についての家庭の理解と協力を得るべく、有効活用努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	すぐー等の活用を推進し、地域とも用意かつ密に連絡できる体制整備に期待する。				